

研究紀要の掲載に寄せて

近年、「教育改革」の流れが加速度的に進行しています。平成 27 年度はその象徴的な年でありました。平成 27 年 8 月には、中央教育審議会教育課程企画特別部会から論点整理が出され、次期学習指導要領の方向性が定まるとともに、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」や「社会に開かれた教育課程」の必要性が広く認知されました。同年 12 月には、中央教育審議会より 3 つの答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」が出され、特に、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」においては、初任者研修や 10 年経験者研修の改革の方向性が示されました。

こうした全ての教育改革の流れの背景には、将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子どもたちが自らの人生をどのように切り拓いていくのか、そのために、教職員は子どもたちにどのような資質・能力を身に付けさせる必要があるのか、常にこうした視点から考えていく必要があることを忘れてはなりません。

本センターは、未来に生きる子どもたちのことを考え、あらゆる分野の研究に取り組んできました。「研究から研修へ」という合い言葉が示すとおり、研究の成果を研修に生かしていくことこそ、研究の成果を還元していく最大のツールと捉えました。各研修の機会に学校現場の教職員に分かりやすく伝え、日々の実践に生かしていただくことが、センターとしての大きな役割を果たすことになると考えています。

本紀要は、本年度の最終年次の研究を中心にまとめ、本センターホームページ上に掲載しております。学校が直面する課題解決のために、本センターの研究を少しでも役立てていただければ幸いです。

結びに、研究に際して、御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

静岡県総合教育センター
所 長 杉本 寿久